

# 元経産官僚・古賀茂明氏が講演会で 安倍政権と道議会新庁舎建設を批判

■6月から北海道で本格活動。狙いは来春の知事選出馬？

「元経産省の官僚で「改革はするが、戦争はしない」という第4の選択肢を日本の政策として実行すべきと提唱している、「フォーラム4」代表の古賀茂明氏(62)。この古賀氏の講演会「安倍政権下の政治経済展望」報道が伝えない不都合な真実「北海道の未来展望を語る」が4月25日夕、

札幌市内のわくわくホリデーホールで開かれた。

財務省の福田淳一事務次官がセクハラ問題で辞任に追い込まれるなど官僚の言動が問われている最中ということもあり、元官僚である古賀氏の言葉に耳を傾けようと会場には700人あまりの市民が訪れた。主催

は「北海道の未来を拓く会」(新藤大次郎会長)と「フォーラム4北海道・古賀みらい塾準備委員会」。

テレビ朝日の報道ステーションで安倍政権に繰り返し批判的なコメントを繰り返していた古賀氏は、「官邸から圧力を受けた」と同番組を降板。今回の講演では、前述の福田氏からセクハラを受けたテレビ局女性記者が同じテレビ朝日の記者だったことを踏まえて、同局の内部事情に言及した。女性記者がセクハラ発言を録音しておきながら、会社側が安倍政権に気を使い自社で放送できなかった経緯を説明しながら、「テレビ局全体を安倍政権が支配しようとしている」と述べた。

世界の中で「報道の自由がない」とされる日本の大手メディア記者のサラリーマン体質や、記者クラブ制度についても鋭く批判。「終身雇用の大手メディアの記者はジャーナリストというより会社員としての判断が優先する」と述べると会場から失笑がもれた。

安倍政権に対しては、



講演後、テレビ局のインタビューに答える古賀氏 (4月25日)

「今のまま続くと、相当日本が危ない」と危機感を募らせる言葉が続いた。アベノミクスが成功しているように見えるよう、実際にテレビメディアに働きかけた例を挙げたり、外交では中東諸国や北朝鮮への対応のまずさを取り上げ、「国際的に信頼を失っている」と指摘した。

森友、加計問題では、公文書の取り扱いについて自身が官僚だった経験をもとに中央官庁の原則が3つあるとし、①公開を求められたらなるべく隠す ②なるべく時間をかけて出す ③公開できないような内容は公文書にせず、個人的な文書にするなどと「役所の論理」を暴露した。

1年に必ず何度かは訪れていると

いう北海道の現状と未来についても触れ、道議会庁舎の建設問題については「1年に数十日にしか議会は開かれないのに、100億円以上もかけて造る必要は全くない」と批判。厳しい道の財政状況の中でも将来を見据えて、観光に主眼を置いたインフラ整備に充てるべきだと説いた。

講演終了後には、道内テレビ局のインタビューも受け、来年の知事選への展望を問われると、「高橋知事は

(厳しい財政状況で)夜も眠れないのではないか。誰がやるにしても大変なこと」と話していた。

古賀氏は、自らの理念を北海道に広めるための勉強会「フォーラム4北海道・古賀みらい塾」を立ち上げ、塾長として6月から本格的活動に入る。第一期塾生50人を募集中で「北海道はポテンシャルがある。自分は何ができるか。楽しみにしている」と述べていた。

(黒田伸)